

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	3 ボランティア活動・教育(研究科)《全学的な視点》	
中項目		
小項目	3.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1) 方針、実施内容	
	(KG2) ボランティア活動実践への対応	
	(KG3) ボランティア活動に関する課題の把握	
	(KG4) ボランティア教育の現状	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ミッションステートメントを軸としてボランティア理解を整理し、本学独自の活動のあり方の理念的根拠を明確化する。	→ ミッションステートメントにもとづく学院ボランティア理解の提示	C	B	B	B	B
2. これまで展開されてきた活動の系譜を整理するとともに、ミッションステートメントを受けてどのように継承・発展させるか、その展望を明示する。	→ 学院ボランティア活動の系譜理解と、その継承・発展のためのマテリアル作成、配布状況	D	C	C	B	B
3. ボランティア活動を学生などによる自主的活動という位置づけから、積極的に大学の正課教育活動としてとらえ直し、Service Learningとしての内実を求める。	→ 正課カリキュラム上でのボランティア関連科目の設置、受講者数	D	C	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ヒューマン・サービスセンターや宗教総部等、本学で活動している団体の紹介や勧誘をチャペル・アワーならびにキリスト教科目等の時間を通して各学部宗教主事ならびに当該学生が協力して実施してきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新たな協力者の獲得やボランティアへの理解の深まりがあった。ただし、各団体の関連性が明確でなく、学生の間情報混乱があるため、各団体の関連性を明確にする必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ヒューマン・サービスセンターの発展的改組を行い、ボランティア団体の関連性の整理や情報の統一を行い、より効率的な運営を実施する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ヒューマン・サービスセンターや宗教総部等、本学で活動している団体との話し合いを継続的に行い、その継承・発展に向けての取り組みを各団体顧問ならびに関係者・学生と実施してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生間の各団体の歴史や目的の再確認がなされ、これまでの活動の継承と発展に向けての準備がなされてきている。しかし、学生の責任者が毎年度交代する中で、より効率的に継承と発展に向けた取り組みをしていく必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ヒューマン・サービスセンターの発展的改組の中で、これまでの歴史を正確に記録し継承するようしていく。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際ボランティア活動に参加するための学生対象の正課を教務機構ならびに国際連携機構の関係者が整備し、より高度なボランティア養成に向けての組織を構築してきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 正課の履修を終えた学生がボランティアとして派遣されることとなったが、語学力等の関係で、その数があまり多くない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 国際ボランティアとして必要な教養ならびに語学力を育成するためのプログラムを策定する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	